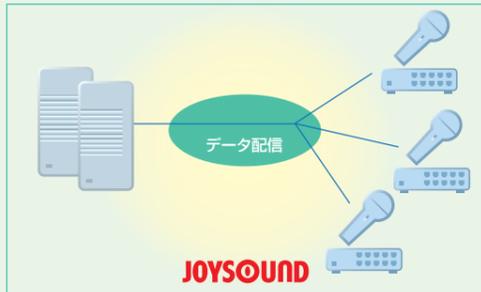


通信カラオケ「JOYSOUND」(1992年～)



XING
株式会社エクスシングを設立



1964年の設立以来、インテックは「コンピュータ・ユーティリティ」社会の実現を目指し、全国展開をするとともに、通信ネットワークを構築してまいりました。ネットワークを中心としたサービスにおいて、「際」を発揮したのが、通信カラオケです。

1992年、レーザーディスクなどメディアを交換する必要があったカラオケに革命が起きました。最新データを配信する通信カラオケです。通信カラオケ「JOYSOUND」を展開する株式会社エクスシングは、ブラザー工業株式会社などインテックが共同で設立した会社です。ブラザー工業が持つ精密機器の技術と、インテックが持つ通信技術を融合して、世界にない画期的なサービスを展開しました。通信カラオケは、今や国内では広く普及し当たり前のサービスとしてわれわれの生活を楽しませてくれています。

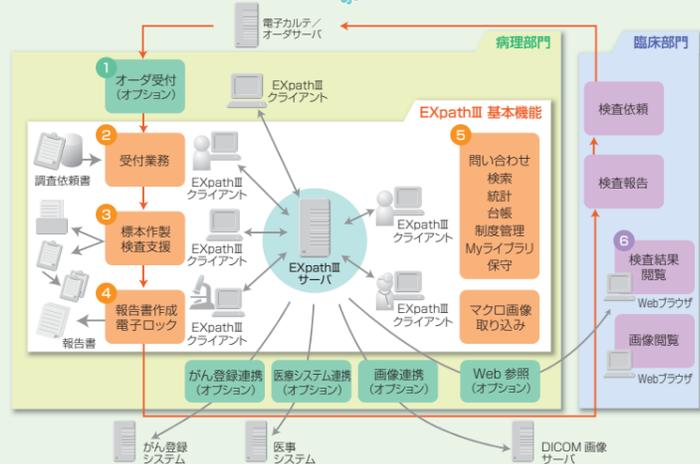
通信カラオケの登場！



『際』を極める

インテックおよそ50年の歴史をふりかえると、「際」というキーワードに注目することができます。技術と技術、業と業をつなぐ「際」、INTERLINKを実現してきたのがインテックです。

病理・細胞診断支援システム「EXpath」(1996年～)



現在、エクシングは、カラオケコミュニティ「うたスキ」サービスにより、ITとカラオケをさらに融合しています。

医療分野での画像処理

1996年、インテックは、病理検査支援システム「EXpath(エクスパス)」を発売しました。病理検査のシステム化には、検体の画像処理技術が必要でした。インテックは「MediPack」という医療パッケージで、病院業務には精通していましたが、病理や医療機器に携わったことはありませんでした。そこで、株式会社

※「コンピュータ・ユーティリティ」社会…電気やガス、水道のように、だれでもどこでもいつでもコンピュータパワーが使える社会のこと

ニコンがもつ、精密・光学機器の技術提供を受け、EXpathが誕生しました。その後、バージョンアップを重ね、2003年には「EXpathⅢ」そして2009年に「EXpathⅣ」が発売され、全国の50以上の医療機関でご利用いただいています。

バイオと情報処理技術の融合

遺伝子工学の分野では、大学や研究機関との共同研究をもとに遺伝子解析などの研究・開発を行っています。大学や研究機関の持つ遺伝子解析技術とインテックの情報処理技術により、バイオの世界にさまざまな成果をもたらしてきました。

2003年から開始した理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター、他との共同研究ではヒトとマウスのゲノムにある朝・昼・夜のスイッチとなる体内時計の制御DNA配列を網羅的に解析し、データベース化に成功しました。また文科省の知的クラスター創成事業「とやま医薬バイオクラスター」では富山大学、株式会社ツムラ、富山県立中央病院とともに血中タンパク質の発現プロファイルを独自の手法で解析し、漢方医学の病態変化「証」や治療効果の予測につながるバイオマーカーの探索を行いました。

これらの技術は、その後、民間企業との共同研究にも活かされ、最近では東ソー株式会社とのレジオネラ属菌検出試薬の開発などに応用されています。

世界最高水準のデータセンター

2000年、東京電力株式会社と株式会社アット東京を設立し、インターネット時代に対応した世界最大規模データセンターを建設しました。

生活になくならない商品の流通という重要な責務を負っています。

インテックは、インターネットに加え、1986年の冷凍食品業界のVAN運営会社である株式会社ファイネットにおいても、フォールトトレラント（耐障害性）コンピュータを利用した、ノンストップ運用を行いました。

2002年には、広告会社とテレビ局・新聞社間の広告の受発注関連のEDI（Electronic Data Interchange）システム基盤を提供する株式会社広告EDIセンターを広告会社12社と設立しました。

業界VANシステムの開発や運用で培ったノウハウを活用し、現在では、食品の安心を確保するトレーサビリティシステム「iTRe（アイトレ）」で、生産、流通業者と消費者とを安全、安心でつないでいます。また、流通BMS（Business Message Standard）に対応した新たな流通システムへの対応も行っています。

クラウド時代の「際」

2011年をインテックは、クラウドサービスの本格活用元年と位置付けています。個人だけではなく、企業でのクラウドサービスの本格的な利用が開始されると見込んでいます。インテックでは、エンタープライズ向けクラウドサービス基盤「ENIS/SPS」、System i 向け仮想ホスティングサービス「ASクラウドサービス」、クラウドテレフォニー「Callノート／Callクレヨン」などのクラウドサービスを展開しています。お客様さまにこれらのサービスを提供するだけでなく、既存のシステムあるいは他ベンダーのクラウドサービスとの連携を図り、お客様さまにとってベストなシステムを提供する「クラウドインテグレーション」サービスを行っ

さらに、2009年には、北陸電力株式会社と株式会社パワー・アンド・ITを設立し、2011年に、北陸地区における免震構造による本格的なデータセンターを開業しています。いずれの場合も、電力会社の持つ安定的な電力供給と社会的信頼、インテックのシステム構築、運用管理技術を融合して、24時間365日ノンストップの安全、安心な高信頼性サービスを提供しています。

インテックは、これらのデータセンターと自社のデータセンターとをネットワークを介して結合し、強力な災害対策となる広域分散型のデータセンター基盤を確立しています。データセンターは、災害対策としてだけではなく、クラウドサービスを提供するための基盤として、その重要性が認識されてきています。



業界VANシステム運用の責務

1985年、インテックが中心となりわが国初の業界VAN（Value Added Network）運営会社である株式会社プラネットが設立されました。わが国を代表する日用品雑貨業界のVANで、メーカーと卸店との間の受発注処理を、ネットワークでつなぎました。汎用機で開始した当初から現在にいたるまで、インテックのデータセンターで常時監視を行い、われわれの

※スマートメーター
スマートメーターは、検電状態、遠隔検針に加え、電力消費状況把握のためのキーデバイスとして実証が進められている。

北陸電力が実証実験に使用するスマートメーター
(写真提供：北陸電力株式会社)

また、現在、大きな注目を集めているのは、スマートコミュニティです。スマートシティ、スマートコミュニティ、スマートグリッドと、「スマート」な社会の到来が求められています。スマートな社会では、さまざまな機械やセンサーから膨大なデータが出力されます。各家庭には、スマートメーターが設置され、家電製品が消費するエネルギーやセンサーを管理するエネルギー管理システムとスマートメーターとが連携することによりスマートな社会が構成されることとなります。

スマートフォンなどで入手できる位置情報、スーパーやコンビニでの購入情報、公共交通機関の利用状況など、膨大であると同時に機微な情報が出力されます。これらの情報を活用したマーケティングは極めて効果的であると考えられています。

スマートコミュニティ実現のためには、さまざまな情報が蓄積、利用される社会プラットフォームが必要です。膨大なデータを効率的に収集し、安全に保管、いかに活用するかについて、解決すべき課題があります。

インテックは、情報サービス事業者として、便利、快適、安全、安心なコミュニティを築いていくことにより、社会への貢献を果たすべく、今後も「際」をつないでいきたいと考えています。